
東京外国語大学

ICS 13—2009

総合文化研究所

2009 年度所員活動報告

【資料・研究ノート・教科書・その他】

- ・岡野進・伊藤宏・阿保雅行（2009）全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の競技運営に関する小学生競技者の満足度調査—— 2008 年の大会を中心に——，陸上競技研究紀要、第 5 巻、pp.26-31.
- ・阿保雅行・伊藤宏・岡野進（2009）全国小学生陸上競技交流大会の競技運営に関する小学生競技者の満足度調査—— 2008 年の大会を中心に——，陸上競技研究紀要、第 5 巻、pp.326-37.
- ・阿保雅行・黒澤達郎・中島剛・鈴木一弘・吉儀宏（2009）競技会アナウンスに関する観客の満足度調査——セイコースーパー陸上競技大会川崎 2008 を中心に——，陸上競技研究紀要、第 5 巻、pp.38-43.
- ・阿保雅行（2009）本学体育会運動部の運営に関する満足度調査—— 2008 年を中心に——，東京外国語大学論集、第 78 号、pp.289-302.
- ・阿保雅行・長野史尚・神尾正俊・石井智也・関岡康雄（2009）日本陸上競技対校選手権大会の競技運営に関する競技者の満足度調査—— 2008 年大会を中心に——，陸上競技研究、第 78 号、pp.35-408.
- ・阿保雅行・長野史尚・神尾正俊・石井智也・関岡康雄（2009）日本陸上競技対校選手権大会の競技運営に関する競技補助員の満足度調査—— 2008 年大会を中心に——，陸上競技研究、第 79 号、pp.58-63.
- ・阿保雅行（2009）世界陸上大阪 2007 の競技運営—— TIC の実際を中心に——，体育・スポーツ経営学研究、第 23 巻、pp.59-61.
- ・阿保雅行（2009）陸上競技、学研教科図書編集部、スポーツとルール、学研研究社、pp.2-22.

【共著】

- ・“Mpu Tantular dan Cakrawala Harapan dalam Kakawin Sutasoma.” In *Sadur: Sejarah Terjemahan di Indonesia dan Malaysia*, ed. Henri Chambert-Loir, pp. 1033-1043. Jakarta: Kepustakaan Populer Gramedia, 2009.

【研究発表】

- ・「多民族国家における寛容と非寛容の境界——インドネシアの反ポルノ法をめぐって」世界の多言語・多文化社会研究国際シンポジウム「トランスナショナル／トランスカルチュ

ラルな比較地域研究」, 2009 年 2 月 15 日, 東京外国語大学.

- ・ “The Self-image of the Fourteenth Century Javanese: Reading the Structure and Meaning of the Annual Court Ritual in the Deśawarṇana Cantos 83-91.” 29 July 2009. International Conference and Summer School on Indonesian Studies (ICSSIS), Faculty of Humanities, University of Indonesia, Depok.

藤井守男

今年度は、科学研究費補助金による研究「ペルシア語説教テキストのデータ解析による神秘主義的表現世界に関する基礎研究」(基盤研究(B):平成21~23:研究代表者)に関連して、British Library においてペルシア語神秘主義テキストの写本の一部を検証し、Institute of Ismaili Studies (イスマイル派研究所:ロンドン)で本研究につき意見交換をした。また、ペルシア語の神秘主義テキストの研究の一環として、本科研費で、カリフォルニア大学バークレー校のハーミド・アルガル Hamid Algar 教授を招き、“Reflections of Ibn ‘Arabi in the Prose and Poetry of ‘Abd ar-Rahman Jami”と題する講演(2009:1月9日)を通じて、神秘主義研究の現状に関して新たな知見を得る機会を得た。

博多かおる

【論文】

- ・ 「19 世紀フランス文学における都市と俯瞰」、『東京外国語大学論集』第 78 号、pp.41-66、2009 年 7 月 31 日。
- ・ 「クンデラの小説と音楽——『存在の耐えられない軽さ』における音楽的手法と〈変奏〉の概念」、『ふらんばー』(東京外国語大学フランス語研究室編)、第 34 号、pp.68-93、2009 年 3 月。

【書評】

- ・ 奥田恭士『バルザック——語りの技法とその進化——』(雑誌『ふらんす』11月号、白水社)。

【翻訳】

- ・ F・プレモリ・ドルーレ著『作家の家』鹿島茂監訳、拙訳、西村書店、2009 年 2 月 20 日初版第一刷。

【シンポジウム】

- ・ 研究発表「ゴーチエとベルリオーズにおける「幻想」と自我の複層性」(上智大学仏文学

会シンポジウム「諸芸術の交流と芸術家たちの出会い——テオフィル・ゴーティエをめぐる文学と音楽・舞台芸術——」、2009 年 11 月 21 日）。

岩崎務

去年は、下のような雑文以外には活字になったものはありません。ここ 2,3 年は新しいラテン語辞書の担当語彙項目の執筆に苦労しています。うまく行けば、数年後に出版されるはずです。

- ・「水野有庸先生の思い出」（『ラテン詩人水野有庸の軌跡』、大阪公立大学共同出版会、2009 年 3 月、88－90 頁）。

初めてラテン語を教わり、この道に入る転機をもたらしてくださった奇人、水野先生がお亡くなりになって寄せた文章です。

- ・「新入生にすすめる本」、「叢書名 Pieria Books（ピエリア・ブックス）の由来」（『ピエリア』2009 年春号、東京外国語大学出版会、2009 年 3 月）

加藤雄二

【5 月】

- ・2009 年はエドガー・アラン・ポーの生誕 200 周年にあたるので、日本のポー学会が 9 月に記念学会を主催することになっていた。これまでポー学会で研究発表などを行ったことがなかったので、「ポーを（脱）歴史化する——モダニズムと現代批評におけるテキストと作家像の形成」という発表概要を準備し、応募して受理される。

【6 月】

- ・エルサレムで開催されたハーマン・メルヴィル学会で研究発表。学会のテーマが、メルヴィル後期の難解な詩集 *Clarel* だったので、詩の議論に初挑戦したことになる。科学研究費補助金による研究発表は、“Herman Melville’s Wandering Narrations” というタイトルで行われた。UC Berkeley の Sam Otter 教授などからコメントを頂いたことは有益だったが、研究発表を発展させたエッセイはまだ完成していない。

【9 月】

- ・慶応大学で開催された日本ポー学会第 2 回大会で上記の研究発表を行う。久しぶりに日本で日本語をつかって研究発表をしたにしても、原稿が長すぎたり、内容が面倒すぎたりして、発表があまりうまく行かなかったことを学会の皆さんにお詫び申し上げます。

【10月】

- ・フィラデルフィアで開催されたエドガー・アラン・ポー生誕 200 周年記念学会で“*When We Were Orphans: Edgar A. Poe, Vladimir Nabokov and New Directions in Contemporary Culture*”なる研究発表を行った。こちらも科学研究費補助金による研究の一部である。内容は、おもにポーの影響をナボコフとカズオ・イシグロ、ポール・オースターなどの作品の形式に見いだすというもの。日本での研究発表の原稿が長過ぎたことに懲りた結果原稿をきわめて短くして発表した。日本から、巽孝之氏ほか学者、作家の皆さんが参加され、研究発表だけではなく、江戸川乱歩についてなど、特別にセッションが組まれた。

【1月】

- ・時間に追われるように感じつつ、『総合文化研究』にポー生誕 200 周年にちなんだエッセイを書かせて頂く。ただ、1 年間ポーにかかわっていたにしてはあまりにも粗末なものにも思われるので、研究した内容をなんとかもう少し網羅的な論文にする時間を見つけないと焦る。

川口健一

【翻訳】

- ・ベトナム現代戯曲「三姉妹の家」（グエン・トゥー・フオン作）、座・高円寺「アジア劇作家会議 2009」（日本を含むアジア 6 カ国）にてリーディング形式で上演（12 月 18 日）。および、当日同会議でのベトナム語通訳。

【エッセイ】

- ・「ベトナムの現状」『死刑——作家の視点、言論の責任——』日本ペンクラブ第 27 回 WiP（ライターズ・イン・プリズン）の日パンフレット、p.17、2009 年 3 月 5 日日本プレスセンターにて開催。

【データ】

- ・受動表現データ「ベトナム語の受身文」『語学研究所論集』（第 14 号）東京外国語大学語学研究所、pp.211-215、2009 年 3 月 30 日発行。

菊池陽子

- ・「タイ共産党の武装闘争路線への道筋——東北タイ・シーサケート県の共産主義運動を 1 つの契機として——」（高橋勝幸氏報告）のコメンテーター 東南アジア学会関東例会

2009 年 1 月 31 日 上智大学

- ・「本学図書館所蔵革命期ラオス語新聞のデジタル化保存」『東京外大 東南アジア学』第 14 巻 2009 年 3 月 31 日 pp.141-143
- ・「ラオスの概要——ラオスの歴史文化——」(ISC 勉強会での講師) 2009 年 7 月 28 日
- ・事典項目 「アヌ」(p.49)「ランサーン王国」(p.410) 日本タイ学会編『タイ事典』めこん 2009 年 9 月

久米順子

10 月に本学へ着任、所員に加えていただきました。以下はほとんどが、時間だけは湯水のようにあった（はずの）学振特別研究員時代の過去の遺産です。この先は、授業その他の用務の合間にどう自分の時間を確保するかが課題となりそう——遍歴学生の看板を下ろし、そんなことを言える身分になったことが、嬉しくもあり切なくもある 年度末です。

【論文】

- ・“La producción de códices iluminados en los monasterios fronterizos durante los inicios de la Reconquista”, *Arte en tiempos de guerra. Actas de XIV Jornadas Internacionales de Historia del Arte*, Madrid, 2009, pp. 263-272.
- ・“La jerarquización espacial del folio iluminado durante la transición del ‘arte mozárabe’ al románico”, *Relegados al margen: marginalidad y espacios marginales en la cultura medieval*, Madrid, 2009, pp. 243-255.
- ・「宮廷と修道院の間で——レオン王国の王女たちによる美術パトロネージと初期スペイン・ロマネスク」『西洋美術研究』（三元社）第 15 号（特集：聖俗のあわい）、2009 年、64-83 頁。

【研究報告】

- ・2010 年 1 月 9 日、早稲田大学中世・ルネサンス研究所第 2 回研究会「中世ヨーロッパにおける終末のイメージ」、研究報告「千年紀（ミレニアム）を超えて——レコンキスタの進展と盛期中世のベアトゥス写本」

【その他】

- ・「レオン・カスティーリャ王アルフォンソ 6 世の没後 900 年祭」地中海学会月報 325（2009 年 12 月）号、6 頁
- ・財団法人スペイン協会第 44 回高門宮杯スペイン語コンクール審査員

桑田光平

【研究論文】

- ・「幸福な読書——ジャン＝ピエール・リシャルについて」、『水声通信』、第 32 号、水声社、92-95 頁、2009 年 12 月 20 日。

【シンポジウム・講演会】

- ・基調講演「科学と人文学」、2009 年 11 月 6 日、臨床美術学会第 1 回大会、於・アルカディア市ヶ谷。
- ・基調講演「芸術と科学——異分野間の対話へ向けて」、2009 年 11 月 14 日、日本感性福祉学会第 9 回大会、於・山形短期大学。

李孝徳

2009 年 3 月 31 日まで本学の在外研究プログラムで合州国ハワイ州ホノルル市（ハワイ大学マノア校所属）に滞在後、4 月 1 日より現職復帰。

【論文】

- ・「記憶のリアドレス——『ピクチャーブライド』と日系移民女性史の語り直し」『総合文化研究』東京外国語大学・総合文化研究所、2009 年、95-116 頁。

【翻訳】

- ・ジョージ・M・フレドリクソン『人種主義の歴史』李孝徳訳、みすず書房、2009 年。

前田和泉

【翻訳（単訳）】

リュドミラ・ウリツカヤ著『通訳ダニエル・シュタイン（上・下）』

発行所：新潮社

分量：上・318 頁、下・381 頁

発行月：上・2009 年 8 月、下・2009 年 9 月

松浦寿夫

【論文】

- ・「二つの鏡」(9～11)、『水声通信』

【座談会記録】

- ・「いま絵画を問う」(『美術評論家連盟会報』第10号)

【翻訳】

- ・ジャン・クレール、『クリムトとピカソ、1907年』(水声社)

なお、きわめて不誠実な担当編集者との間で意志の疎通がとれず、本訳書の現行版には数多くの校正ミスが残っている。近日中に改訂版を刊行するとともに、正誤一覧を版元のホームページ上に掲載する予定である。この場を借りて同訳書入手された読者に深くお詫び申し上げたい。

【展覧会】

- ・個展(なびす画廊、東京、1月)
- ・個展(『自然哲学としての芸術原理』の連続個展、東京アートミュージアム、東京、4月)

水野善文

【研究論文】

- ・平成21年3月31日 「ムレッチャ概念とムスリム——インド中世文学におけるイスラーム表象の若干例——」 科学研究費補助金基盤研究(B)『地球規模における「イスラーム」表象の宗教史的・文化史的総合研究』研究成果報告書(研究代表者：青山亨)

【書評】

- ・2009年7月 〈Book Review〉 McComas Taylor, *The Fall of the Indigo Jackal: The Discourse of Division and Purnabhadra's Pancatantra* (State Univ. of New York Press, 2007, p.236), *International Journal of Asian Studies* (Cambridge University Press), Vol.6, Pt.2, pp.271-272.

【翻訳・解説】

- ・平成21年7月15日 (史料翻訳解説) 歴史学研究会編『世界史史料2 南アジア・イスラーム世界・アフリカ』(岩波書店) pp.10-16, 25-28. (概要) 「インドラ神への讃歌」ほか6項目

【学会等における口頭発表】

- ・平成 21 年 7 月 22 日 第 10 回国際バクティ学会 (10th International Bhakti Conference, Early Modern Literatures in North India, at Sapiennta-Hungarian University of Transilvania, Miercurea Ciuc, Romania, 22-24 July 2009) “On the story of Chandrasaha : Transmission of a Narrative and Bhakti”
- ・平成 21 年 9 月 1 日 第 14 回国際サンスクリット学会 (14th World Sanskrit Conference, 1-5, Sep., Kyoto University) 第 7 部会 ‘Sanskrit and Regional Language and Literature’ のコンビーナー並びに司会、および研究報告 “On Oneiromancy in India; Several Paths for transmitting Texts”
- ・平成 21 年 12 月 5 日 人間文化研究機構プログラム「現代インド地域研究」2009 年度全体集会における報告「文学・文芸という視座」

【プロジェクトのコーディネート】

- ・平成 21 年 5 月 30 日 科研・基盤 (A) 「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」(研究代表者:水野善文) 第 1 回研究会 (at TUFS 本郷サテライト) コーディネート並びに司会。
- ・平成 21 年 10 月 3 日 日本南アジア学会第 22 回全国大会(at 北九州市立大学)におけるセッション「歴史における文学的教養とその場」の設営。
- ・平成 21 年 12 月 19 日 科研・基盤 (A) 「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」(研究代表者:水野善文) 第 2 回研究会 (at TUFS 本郷サテライト) コーディネート並びに司会。

村尾誠一

二〇〇九年は、念願の論文集を刊行することができました。

『中世和歌史論 新古今和歌集以後』(青簡舎 二〇〇九年十一月) 中世和歌の通史的な見通しを提示する形で構成でき、自分では満足できる一書となりました。今後考えなくてはならない課題も多々明らかになりました。

その作業を並行しながら、二〇〇九年は主に二つの仕事を進行させました。一つは古都である南都(奈良)の文学の問題です。三月に本研究所の雑誌に、堀辰雄の奈良紀行というべき小品を扱った、「堀辰雄『十月』論——古典的風土および古典の内在化に関する考察——」(『総合文化研究』一二号・二〇〇九年三月)を書きましたが、それと前後して岩波書店に『文学』特集号のために組織された「南都の文学」の研究会に参加することができました。毎月一度のペースでの研究会は実に楽しいものでした。その成果は『文学』二〇一〇年一・二月号に座談会と論文の形で掲載されます。

もう一つは、所属する和歌文学会が監修して発足するシリーズ「コレクション日本歌人選」

の一冊として『藤原定家』を書き上げる作業です。一般読書人を対象に定家の歌五十首を解説するのが主となる作業でしたが、何とか年内脱稿を果たせました。二〇一〇年には世に出せるはずです。

沼野恭子

【著書】

- ・『ロシア文学の食卓』（NHK 出版、2009 年 1 月 30 日）

【エッセイ】

- ・「ロシアの『物くさ太郎』？ ——ゴンチャロフ『オブローモフ』」（『本の雑誌』2009 年 6 月号）
- ・「『クレスト』はロシアの十字路」（『波』2009 年 10 月号）

【書評】

- ・小川洋子『猫を抱いて象と泳ぐ』（『週刊読書人』2009 年 3 月 6 日）
- ・セルゲイ・プロコフィエフ『プロコフィエフ短編集』サブリナ・エレオノーラ／豊田菜穂子訳（『週刊読書人』2009 年 10 月 16 日）

【講演】

- ・日本近代文学館「声のライブラリー（自作朗読の会）」2009 年 2 月 14 日。
- ・庭園美術館「ロシア式セルヴィスの謎？ ロシア食文化の歴史」2009 年 4 月 18 日。
- ・東京外国語大学外語会合同講座「ロシアの文化と食」2009 年 7 月 23 日。
- ・カフェ光文社古典新訳文庫トークイベント「花かダンゴか——ロシア文学の恋と料理」（青山ブックセンター）2009 年 8 月 22 日。
- ・埼玉大学 & With You さいたま公開講座第 4 回「書く女、描かれる女——現代ロシアの女性作家たち」2009 年 10 月 3 日。
- ・JIC 国際親善交流センター「過去へのまなざし、未来へのアプローチ——現代ロシアの人気作家たち」2009 年 11 月 14 日。

【テレビ・ラジオ出演】

- ・NHK「テレビでロシア語」講師、2009 年 9 月 20 日より半年間。
- ・NHK「ラジオ深夜便、ないとエッセイ」2009 年 10 月 12 日～15 日まで 4 日間。

【翻訳】

- ・ニーナ・サドゥール短編「空のかなたの坊や」（『新潮』2009 年 6 月号）
- ・オリガ・スラヴニコワ評論「あたらしい世代の作家が現れてきた——現代ロシアの文学状

況と若手作家たち」(『遠近』31号、2009年10月)

- ・オリガ・スラヴニコワ短編「超特急『ロシアの弾丸』」(『新潮』2009年12月号)

岡田和行

【論文】

- ・「D. ナツァグドルジの詩『わが故郷』と『史詩』」(モンゴル語論文)『北東アジアの新しい秩序を探る：国際シンポジウム「アーカイブス・歴史・文学・メディアからみたグローバル化のなかの世界秩序——北東アジア社会を中心に——」論文集』、風響社、2009年3月30日、217-225頁。
- ・「井上靖の歴史小説『蒼き狼』をめぐる論争について」(モンゴル語論文) *Proceedings of the Second International Conference “Past and Present of the Mongolic Peoples”* 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2009年7月15日、280-286頁。
- ・「黒い影から差し込む光明芸術映画『影 (Suuder)』について——」(モンゴル語論文)『モンゴル研究』(モンゴル国立大学モンゴル言語文化学部紀要)、第30(318)号、2009年10月、226-235頁。
- ・「ツェンディーン・ダムディンスレンと『知識人の迷妄』をめぐる」『東京外国語大学論集』、第79号、2009年12月31日、107-120頁。

【報告書】

- ・平成17年度～平成19年度科学研究費補助金・基盤研究(C)研究成果報告書『ポスト社会主義時代のモンゴル国における文学の伝統と刷新に関する研究』、2009年3月、184頁。

【教科書】

- ・『モンゴル語聴解練習I・II』(J.Bat-Ireeduiと共著)、Ulaanbaatar, Mon-Education Press Publishing, 2009年8月、167+131頁、CD2枚付。

【記事】

- ・「モンゴル学者カズユキ・オカダ：ポストモダニズムの潮流がモンゴル文学に影響を与えた」(モンゴル語記事)、2009年7月6日付『ゾーニー・メデー』紙、第154(3226)号。

【研究発表】

- ・「黒い影から差し込む光明——芸術映画『影 (Suuder)』について——」(モンゴル語)、国際学術シンポジウム「世界史のなかのノモンハン事件(ハルハ河会戦)——過去を知り、未来を語る——」、於モンゴル日本センター1階多目的室(ウランバートル)、2009年7月3日。

【その他】

- ・2009年12月18日、モンゴル日本文化交流取極締結35周年を記念し、駐日モンゴル国大使館で叙勲式・表彰式があり、2009年10月15日のモンゴル国大統領令第140号により、訪日中のゴンボジャビーン・ザンダンシャタル外交通商大臣から「ナイラムダル（友好）勲章」を授与された。

岡田知子

【論文】

- ・「カンボジア近代散文小説『ソパート』に見られる民族意識と近代的自我」『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』第40号、2009年3月、pp.1-23

【その他の出版物】

- ・「書評：シーブーラパー著、宇戸清治訳『罪との闘い』」『総合文化研究』第12号、東京外国語大学総合文化研究所、pp184-186、2009年、3月
- ・「世界の文学 カンボジア 『時代、階層を超えて』」東京新聞（夕刊）、2009年9月3日掲載

【研究プロジェクト】

- ・科学研究費補助金（基盤研究C「現代カンボジア文学の翻訳と研究」2007-2009年度）による研究
- ・東南アジア諸言語研究会（慶応義塾大学言語文化研究所）での動詞を中心とする構文の共同研究

【研究】

- ・カンボジア王立プノンペン大学との大学間学術交流協定が10年目の更新調印式のために、学長に同行し、カンボジアでの調印式をとりおこなった。（2009年12月）

佐々木あや乃

【論文】

- ・「ハーフェズ詩注解(6)」『東京外国語大学論集』第79号 pp.121-141. 2009年12月31日

【学会発表】

- ・「日本における『ルバイヤート』～その受容と翻訳をめぐって～」(ペルシア語) 2009年

8 月 13 日 The 4th National Congress of Iranian Society for the Promotion of Persian Language and Literature, Tabriz University

【研究調査】

- ・科学研究費補助金（基盤研究（B）「ペルシア語説教テキストのデータ解析による神秘主義的表現世界に関する基礎研究」（研究代表者：藤井守男教授）により、8 月に資料収集と研究打ち合わせのため、イラン（テヘラン、タブリーズ）への出張をおこなった。

【その他】

- ・平成 21 年度日本学術振興会外国人研究者招へいプログラム（短期）により、10 月 12 日より 12 月 7 日まで、イラン人文学・文化学研究所のタギー・プールナムダーリヤーン博士を招へいした。10 月 22 日「ルーミーのマスナヴィー」（於本学総合文化研究所）、11 月 28 日「ペルシア古典文学における女性像」（於大阪大学）、11 月 29 日「詩聖ハーフェズ」（於大阪大学）、12 月 5 日「ソフラブ・セペフリーの詩と言葉」（於本学総合文化研究所）の計 4 回の講演を企画・実現させたほか、10 月から 11 月にかけて 4 度、神秘主義表現世界の科研研究会に博士を招き、科研メンバーと関連テキストの講読会を開催した。

柴田勝二

今年は立ち上がった大学出版会から、中上健次と村上春樹を比較しつつ論じた『中上健次と村上春樹』という本を出すことができましたが、本学出版会の名を汚さぬものとなっていれば幸いです。また「教養日本力 GP」で、『源氏物語』を語りと劇によって舞台化する企画の責任者となり、人集めから稽古まで担当しました。2010 年 1 月 31 日に公演され、好評のうちに終えることができました。この企画のために、本来の近代文学研究になかなか時間が取れなかったのが正直なところですが、中上・村上を論じた後は、また漱石に戻って、その思想性を軸に考えていきたいと思っています。

【著書】

- ・『中上健次と村上春樹——〈脱 60 年代〉的世界のゆくえ』（東京外国語大学出版会、2009 年 3 月）

【論文】

- ・「討幕派としての漱石」（『総合文化研究』12 号、3 月）
- ・「反転する過剰と欠如——『鼻』から『歯車』へ」（『芥川龍之介研究』2 号、7 月）
- ・「動かされる行動——漱石的無意識の表象」（『東京外国語大学論集』79 号、12 月）

【講演】

- ・「村上春樹と現代世界」（北京大学・9月22日、北京師範大学・9月23日）

鈴木聡

【論文】

- ・「瞬間と分岐——ヴラジーミル・ナボコフの『目』」（『東京外国語大学論集』第七八号、一七一～九三ページ）。
- ・「個性と相似——ヴラジーミル・ナボコフの『絶望』」（『東京外国語大学論集』第七九号、一七七～九九ページ）。

【招待講演】

- ・「ドッペルゲンガーの影——ヴラジーミル・ナボコフの『絶望』を中心として」（中京大学 英米文化・文学会特別講演会、二〇〇九年十一月二十日）。

【その他】

- ・二〇〇九年度日本ナボコフ協会大会を本学にて開催、大会準備委員を務めた（五月十六日）。
- ・二〇〇九年度日本ナボコフ協会研究会で研究発表の司会を務めた（十一月二十八日、神戸松蔭女子学院大学）。

武田千香

【論文】

- ・「『ブラス・クーバスの死後の回想』のナラティブに関する試論」、『東京外国語大学論集』第78号、p.195-222、2009年7月。
- ・「悪徳も美德の肥やし——〈X〉と〈非X〉が織りなす『ブラス・クーバスの死後の回想』の物語世界——」、『東京外国語大学論集』第79号、2009年12月。

【雑誌記事】

- ・情報誌『ヘヴィスタ マイス ブラジル』連載「ブラジル文学の散歩道」
第5回「“大波の目”の女性：カピトゥ——『ドン・カズムーホ』（Dom Casmurro）」、2009年1月。
第6回「死者が振り返った人生——『ブラス・クーバスの死後の回想』（Memórias Póstumas de Brás Cubas)」、2009年2月。
第7回「“ブラジル”の疼きに苦しんだ男——マシャード・デ・アシス「ある有名な男」」、

2009 年 3 月,

第 8 回「まずは作品ありき?——リオのカーニバルから」、2009 年 4 月,

- ・エッセイ「辞書・辞典と私」「冥土への道連れ」 in 『図書新聞』、2009 年 4 月 18 日付、p. 3.
- ・エッセイ「ユーモアと創造性」 in 『ブラジル特報』、2009 年 9 月号、p. 11.

【講演】

- ・ Curso de tradução (「翻訳講座」) . Faculdade de Letras da Universidade do Estado do Rio de Janeiro (リオデジャネイロ州立大学文学部) (2008 年 8 月に開始したものを 2009 年 1 月 30 日まで継続)
- ・ 東京外国語大学オープン・アカデミー 初級講座 および 初中級講座において、各 6 回担当。

土佐桂子

【論文】

- ・ 2009 “The Cult of Thamanya Sayadaw: The Social Dynamism of a formulating Pilgrimage Site” *Asian Ethnology* (Special Issue: Power, Authority and Contested Hegemony in Burmese-Myanmar Religion) 68(2): 240-64. 査読有り

【発表】

国際学会

- ・ “Reconsideration of the Meaning of “Tradition” and “Modernity””(Panel:Colonial Encounters from the 17th Century until 1945) ICAS,(韓国太田市 8 月 8 日)

国内研究会

- ・ 「予言・くじ・運——「紛争」の地における未来を紡ぐ方法」東京外国語大学 AA 研「社会空間と時間」研究会 (11 月 28 日、於：東京外国語大学)
- ・ 「パゴダ・仏像のフェティシズム：モノ・信仰・遺産」東京外国語大学 AA 研「もの」の人類学的研究 (10 月 31 日、於：沖縄県立博物館)

宇戸清治

【論文】

- ・ 「タイの映画 (3) 戦争映画と戦後のタイ映画復興」(『タイ国情報』第 43 巻第 1 号、財団法人日本タイ協会、pp.42 ~ 58、2009 年 1 月。
- ・ 「タイの映画 (4) ペーサタンジーとモダニズム映画」(『タイ国情報』第 43 巻第 2 号、財

団法人日本タイ協会、pp.67～83、2009年3月。

- ・「タイの映画（5）1960年代アクション映画の時代」『タイ国情報』第43巻第4号、財団法人日本タイ協会、pp.69～81、2009年7月。
- ・「タイの映画（6）1960年代の銀幕スター群像（1）」『タイ国情報』第43巻第5号、財団法人日本タイ協会、pp.59～72、2009年9月。
- ・「タイの映画（7）1960年代の銀幕スター群像（2）」『タイ国情報』第43巻第6号、財団法人日本タイ協会、pp.90～103、2009年11月。

【辞書、事典、教材など】

- ・『タイ事典』大項目「文学」をはじめ、タイ作家・映画監督など60項目前後を分担執筆、めこん、2009年9月。
- ・『世界の文字とことば』（町田和彦編）「タイ語」を分担執筆、河出書房新社、2009年12月。
- ・『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』第4改訂版、三省堂、2009年3月。

【翻訳】

- ・『二つの時計の謎』（チャッタワーラック著）講談社、2009年9月。
- ・短篇「ぼくと妻／女神」（カム・パカー著）月刊『新潮』、2009年4月号。

【研究調査】

- ・科学研究費補助金基礎研究（C）「タイの国民作家シーブーラパーの総合的研究」（課題番号20520319、研究代表者）平成20～22年度。8月にバンコクの国立図書館、「シーブーラパーの館」等で資料収集、遺族からの聞き取り調査、研究を実施。

【その他】

- ・独立行政法人JICA青年海外協力隊語学諮問委員としてタイ語教材・試験問題作成、プログラム評価に協力（2009年4～12月）。
- ・福岡アジア文化賞芸術・文化賞選考委員として選考に関与（2009年2月～7月）。

上原泉

- ・上原泉（2009）子どもの記憶、日本児童研究所編（金子書房）「児童心理学の進歩」, Vol.48, 2009年版, 111-134。（2009（平成21）年6月）（依頼論文、査読付き）
- ・上原泉（2009）幼少期の出来事に関する語りはどう変化するか——事例研究の中間報告——. 日本心理学会第73回大会, 立命館大学。
- ・第73回大会発表論文集, 884。（2009（平成21）年8月）

八木久美子

【学会発表】

- ・二〇〇九年九月十二日 「俗人説教師の活躍とイスラムにおける権威の問題」 日本宗教学会 於・京都大学

【論文】

- ・二〇〇九年一月 「イスラムの『俗人』スター説教師」『東京外国語大学論集』七七、一一七～一三三頁。

【翻訳】

- ・二〇〇九年十月 上村忠男、栗屋利江両氏との共訳、『エドワード・サイード 対話は続く』、みすず書房

山口裕之

【論文】

- 「ベンヤミンはハイパーテキストの夢を見るか あるいは、ハイパーテキストの触角性」『DER KEIM』（東京外国語大学大学院・ドイツ語学文学研究会）2009年、第33号、pp. 31-47.

【演奏会プログラム・曲目解説】

- ・ウェーベルン／管弦楽のための6つの小品（原典版）
（高関健指揮、新交響楽団第205回演奏会、2009年4月26日（日）東京芸術劇場大ホール）
- ・R. シュトラウス／交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」
（山下一史指揮、新交響楽団第206回演奏会、2009年7月5日（日）東京芸術劇場大ホール）

*すでに印刷中の雑誌論文、同時に進行しつつあるいくつかの原稿など、ある程度の仕事を進めてはいるものの、今年度中にかたちになったのはこれだけでした……

柳原孝敦

- 1) 2009年2月14、15日、本学多言語多文化センター主催の国際シンポジウム「トランスナショナル／トランスカルチュラルな比較地域研究」に参加。発表を行い、メキシコ、グアダラハラ大学から参加のホルヘ・ドゥランさんとの交渉等にもあたった。

- 2) NHK ラジオ スペイン語講座のテキスト（『まいにちスペイン語』NHK 出版）で「愉
悦の小説案内」という連載コラムを担当(2009 年 4 月号～2010 年 3 月号 予定)。毎月 1 冊、
スペイン語圏の小説を紹介した。
 - 3) 元同僚の故・杉浦勉さんの以下の著書の校閲を手伝った。
杉浦勉『霊と女たち』（インスクリプト、2009）
 - 4) 講演が一件。2009 年 9 月 26 日、代官山ヒルサイドテラス アネックスにてキューバネッ
トワーク主催 キューバ学校第二期第 3 回として
演目：文学を通して見るキューバ革命
 - 5) 所属する日本ラテンアメリカ学会の第 30 回大会を実行委員の一員として準備、開催し
た。2009 年 6 月 6、7 日。
 - 6) 同じく、所属する日本イスパニヤ学会の第 55 回大会、理事会、総会に出席し、研究発
表分科会の司会を務めた。2009 年 10 月 10、11 日。
- その他） 翻訳と著書の執筆に忙殺された。いずれも、2010 年 4 月には出版予定。

尹慧瑛

【論文】

- ・「排除と包摂のはざままで——北アイルランドという地政学的空間」（後藤浩子編『アイル
ランドの経験——植民・ナショナリズム・国際統合』法政大学出版局、2009 年 3 月、
245-264 頁）

【研究活動】

- ・多言語・多文化教育研究センター主催「世界の多言語・多文化社会研究」研究会（月 1 回）
のコーディネート、司会。
- ・多言語・多文化教育研究センター主催国際シンポジウム「トランスナショナル・トランス
カルチュラルな比較地域研究の可能性」（2009 年 2 月 14、15 日）のコーディネート、総
合司会。
- ・多言語・多文化教育研究センター協働実践研究プログラムにおける横浜市鶴見区との協働
研究。
- ・多言語・多文化教育研究センター主催協働実践研究プレ・フォーラム（2009 年 10 月 31 日）
「鶴見における『多文化共生のまちづくり』を考える」総合司会。
- ・多言語・多文化教育研究センター主催「多文化協働実践研究・全国フォーラム」（2009 年
11 月 29、30 日）分科会 A「定住外国人コミュニティをめぐる状況の変化にどう対処する
か——多文化共生の新たな展開に向けて」司会。

【教育活動】

- ・ Add-on Program 「多言語・多文化社会」（全 10 科目）のコーディネート。
- ・ 多文化コミュニティ教育支援室主催の各種セミナー、企画におけるレクチャー。
- ・ オープンアカデミー第 5 回「高校生のための国際理解セミナー」（2009 年 12 月 26、27 日）におけるレクチャー「多言語・多文化化する地域社会の課題と可能性」

【その他】

- ・ 多言語・多文化教育研究センター発行の研究誌『多言語・多文化——実践と研究』Vol.2（2009 年 12 月発行）の編集。
- ・ 多言語・多文化教育研究センター発行のニュースレター「多言語・多文化教育研究」（年 4 回）の編集。
- ・ 東京外国語大学「多文化社会コーディネーター養成講座」（文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」）の運営委員および「市民活動コース」のファシリテーター、論文指導。